

平成30年度 教育方法部 研究のまとめ

1 研究概要

(1) 研究主題

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり

～質の高い学びを目指して～

(2) 主題設定の理由

平成28年12月、中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」(答申)において、「主体的・対話的で深い学び」の具体的な内容が以下のように示された。

- ① 学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。
- ② 子ども同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
- ③ 習得・活用・探究の見通しの中で、教科等の特質に応じて育まれる見方・考え方を働かせて思考・判断・表現し、学習内容の深い理解や資質・能力の育成、学習への動機付け等につなげる「深い学び」ができていくか。

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」(答申)より
中央教育審議会(平成28年12月21日)

平成29年度の教育方法部の研究においては、子どもたちが主体的な学びに向かうために、各教科で問題づくりや問題提示の工夫を行うことで、既有知識を揺さぶったり、自分事として考えさせたり、発問を制限したりすることが、子どもたちの「学びたい」「知りたい」という知的欲求を高める働きかけとなったこと、また、対話的な学びの場を意図的に学習に取り入れる授業改善を行い、個人思考の時間からグループ、全体へと対話の場を広げることで、深まりのある対話を行うことができたこと、教師が意図して問い返したり、揺さぶりをかけたりすることで、対話の場での視点の焦点化や思考の収束につながったことなどが成果としてあげられた。

しかし、全員が見通しをもって主体的に学習活動に取り組めるように、子どもたちが「やりがい」を感じるような問題を考えたり、子どもの思考を促すような発問を工夫したり、活動にも目的意識をもって取り組ませたりすることや、対話を子どもたちにすべて任せるとはせず、形式的ではない意味のある対話につながるような発問を工夫していく必要があることが課題としてあげられた。

また、3か年計画で推進した研究を通して、以下のような成果や課題が得られた。

〈成果〉

- 問題提示の仕方や学習過程を工夫し質的改善を図ったことで子ども達の思考が促され、子どもが探究心をもって主体的に学ぶ姿が見られた
- 学び合いの活動では、交流の目的を明確にし、ペア・グループワークなどを効果的に取り入れたことで子ども達は様々な考えに触れ、思考を深めることができた。

〈課題〉

- 「何ができるようになるか」という子どもたちに必要な資質・能力を育むため、学習内容(「何を学ぶか」)を明確にし、どのような学びの過程(「どのように学ぶか」)がふさわしいのかを見極めた授業づくりを検討することが必要である。
- 「深い学び」の充実のために、より深まりのある対話ができるよう、教師の働きかけについて更に検討することが必要である。

これまでの3力年の研究を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、教師の働きかけや見取り等の工夫や、子どもの学びの過程のさらなる質の向上を図っていくことの重要性を確かめることができた。

これらの成果と課題を踏まえ、今年度の教育方法部では、さらに質の高い学びを図るため、学習過程のさらなる質の向上や学習指導の在り方について研究を進めることとし、授業実践を通して、どのような工夫が授業の質をさらに高めることにつながるのかという点について検証するとともに、教師の指導力の向上をより図るための校内研修の工夫等についても今後さらに検討していく必要があると考え、本研究主題を設定した。

(3) 研究目的

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通し、各教科の特質に合わせた学習過程の質を高める工夫や、学習指導の工夫を図ることで、子どもに身に付けさせたい資質・能力を育む学習指導の在り方を明らかにすることを目的とし、各学校の教育活動の充実に資する。

(4) 研究仮説

【研究仮説1】

「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づいた問題解決的な学習（探究型の授業）において、学習過程の質的改善の工夫を図ることにより、子ども一人ひとりに身に付けさせたい資質・能力を育むことにつながるだろう。

【研究仮説2】

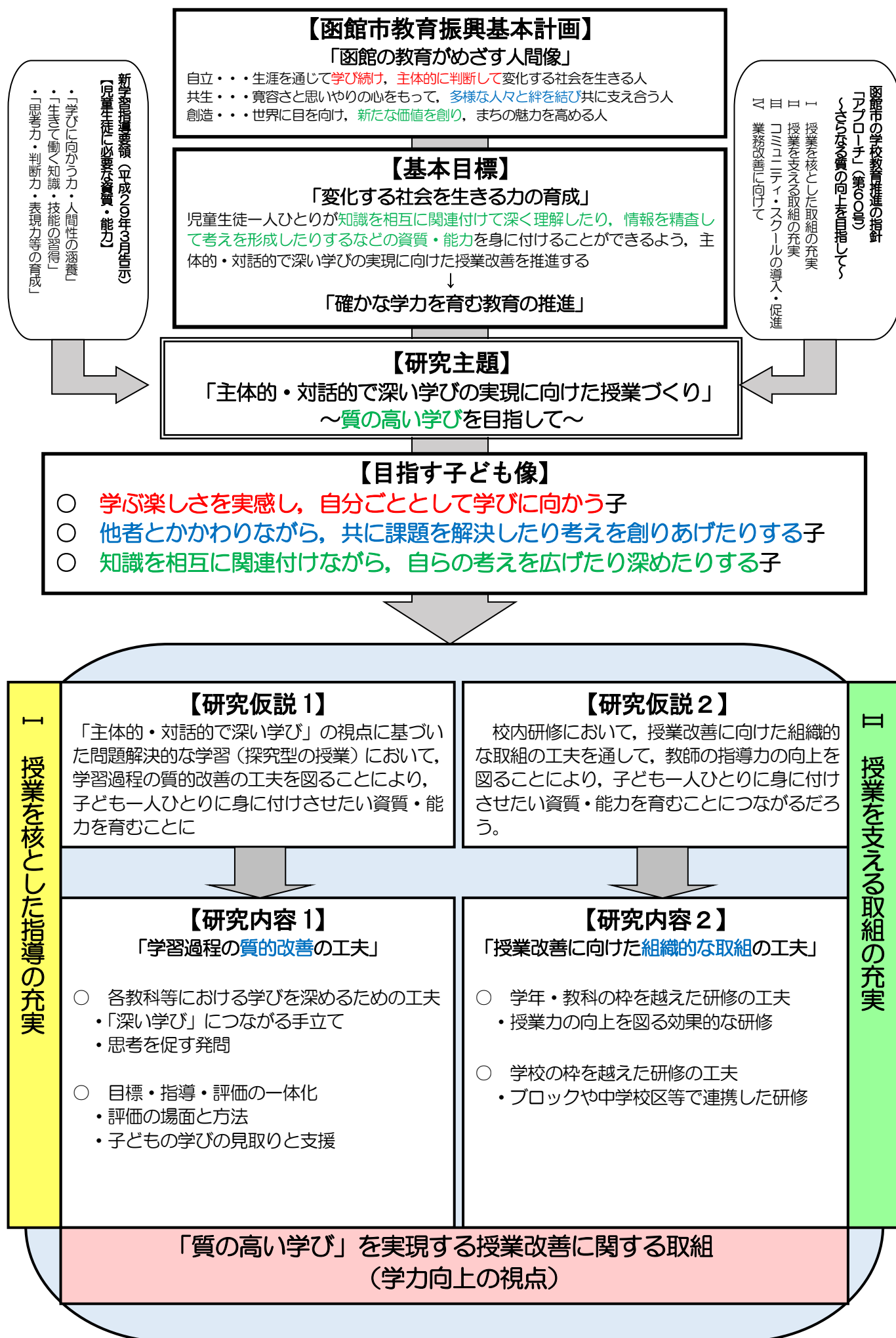
校内研修において、授業改善に向けた組織的な取組の工夫を通して、教師の指導力の向上を図ることにより、子ども一人ひとりに身に付けさせたい資質・能力を育むことにつながるだろう。

(5) 研究内容

- 各教科の特質に合わせた学習過程の質的改善を図る工夫について検討する。
- 校内研修における、授業改善に向けた組織的な取組の工夫について検討する。

(6) 研究計画

研 究 内 容		
平成30年度	平成31年度	平成32年度
◇ 基礎研究・授業研究 ◇ 研究計画の作成 【研究内容1】 ○ 探究型の学習過程の質的改善を図る工夫について ・視点の検討 ○ 研究授業の実践 ・専門研修における授業実践 【研究内容2】 ○ 研修の工夫に関する情報収集 ◇ 第1年次の研究成果と課題の整理	◇ 理論研究・授業研究 【研究内容1】 ○ 探究型の学習過程の質的改善を図る工夫について ・各教科の特質に合わせた学習過程の工夫 ○ 研究授業の実践 ・専門研修における授業実践 【研究内容2】 ○ 研修の工夫に関する効果的・実践的な取組の実践 ◇ 第2年次の研究成果と課題の整理	◇ 授業研究・研究のまとめ 【研究内容1】 ○ 探究型の学習過程の質的改善を図る工夫について ・各教科の特質に合わせた学習過程の工夫 ○ 授業実践 ・専門研修における授業実践 【研究内容2】 ○ 研修の工夫に関する効果的・実践的な取組のまとめ ◇ 第3年次の研究成果と課題の整理 ◇ 3力年の研究のまとめ



2 研究内容について

(1) 研究内容 1

「Ⅰ 授業を核とした指導の充実」を目指して、研究内容 1「学習過程の質的改善の工夫」に取り組むこととした。

学習過程の質的改善の工夫をするために、昨年度のアクティブ・ラーニング研修会等における取組を生かし、授業実践を行った各教科ごとに、視点 1「各教科における学びを深めるための工夫」と、視点 2「目標・指導・評価の一体化」を整理し、明確にした。

① 国語科

視点 1 学びを深めるための工夫

- 身に付けさせたい力を明確にした、適切な言語活動の設定
 - ・言語による記録、要約、説明、論述、話し合い等の充実を図る。
- 目的意識をもつことのできるような必然性のある対話を設定
 - ・授業のねらいに向かって対話が進むような交流の視点を共有化する。
- 思考を促す発問の工夫
 - ・「やってみたい」「できそう」という思いをもたせ、さらに対話を通して授業のねらいに向けて深まっていくような発問を工夫する。

視点 2 目標・指導・評価の一体化

- 評価の方法の明確化
 - ・教師自身がしっかりとした評価規準をもつこと。
 - ・評価の観点を明確にすること。
- 子どもの学びの見取りと支援
 - ・児童の学びの状況や発言、ワークシート等から実態を捉え、具体的な支援の手立てを考える。

② 理科

視点 1 学びを深めるための工夫

- 事象との出会いの場面や、問題設定の場面における工夫
 - ・既習知識、素朴概念をゆさぶる発問をする。
 - ・2つの事象の差異点や共通点を明確にし、子どもが自ら問題を見いだせるようにする。
 - ・論理的思考につながる学習過程を提示する。
(問題→仮説→実験・観察→考察→結論→振り返り)
- 思考を促す発問の工夫
 - ・子どものつぶやきを拾い、全体に問い返す。
 - ・発問を工夫する。
 - ×「なんで?」「どうして?」「気付いたことはある?」
 - 「なにがそのような違いを生じさせていますか?」
 - 「なにがどのように違いますか?」など

視点 2 目標・指導・評価の一体化

- 評価の場面と方法、子どもの学びの見取りと支援の工夫
 - 子どもの学びの状況の見取り
 - ・学習活動において、

- 子どもが、①「何」を、
②「どのように」すべきか、ということが明確になっているか。



子どもの学びの状況に対する支援

- ・自分の予想と同じ子の考えや表現を聞き、取り入れるよう指示する。
(交流・対話を通して学ぶ)
 - ・図、絵、表などを使い、結果から分かることを捉えやすくする。
(ワークシート、ノート、板書)
- 振り返りの場面における工夫
- ・振り返りの視点を明確にする。
- (例) ㊦・・・分かったこと/分からなかったこと ㊧・・・次に知りたいこと
書くべき内容を提示するとよい。

③ 算数・数学

視点1 学びを深めるための工夫

- 課題提示の工夫
- ・理解度に応じた発問やヒントを出す。
(問題の難易度を変える、同じ問題でも文章のみの提示や数直線や図を入れた提示、式の途中を穴埋めにして提示など)
 - ・具体物や半具体物を準備する。
- 思考を促す発問
- ・子どもが答えを予想し、多様な考え方ができるような「思考をゆさぶる発問」をする。

視点2 目標・指導・評価の一体化

- 評価の場面と方法
- ・自力解決の場面で→ノートに自分の考えをどのように書いているか。
 - ・交流の場面で→自分の考えを相手に分かりやすく説明しているか。
相手の説明を聞いて分からないことについて質問しているか。
 - ・まとめの場面で→自分の言葉で学習のポイントを書いているか。
 - ・ふり返りの場面で→今日の学習で分かったことを書いているか。(～がわかった。)
今後、学習してみたいことを書いているか。(～を知りたい。)
- 子どもの学びの見取りと支援
- ・目標を達成することができているかどうか、早い段階で見取る。
 - ・目標を達成できていない子(自分の考えをもてていない子)に対しては、考えるきっかけを用意する。

④ 外国語活動

視点1 学びを深めるための工夫

- 外国語を使用する場面設定の工夫
- ・日常起こりうるもの。
 - ・児童生徒にとってタイムリーなもの。
- 対話による表現の振り返り
- ・思わず英語で答えてしまう場面づくりを工夫する。
 - ・相手と相互にoutputする中での表現への気付きを促す。
- 思考を促す発問

- ・新しい語句や表現のinputをねらった場面での意味を類推させる問いかけをする。
(例)「何て聞こえた？」
- ・自分ごととして話することができるような問いかけをする。
- ・他者との交流を促すことで、自分がoutputしている表現を、相手と比較したり自分の表現を再確認したりする機会として設定する。

視点2 目標・指導・評価の一体化

- 評価の場面と方法
 - ・目標の提示方法を工夫する。
(例) 評価規準としての提示
目標とリンクした自己評価
振り返りシートの活用
- 子どもの学びの見取りと支援
 - ・振り返りシートで、自らの変容・達成度を確認する。
 - ・対話や交流等のoutput中に評価のチャンスを見いだして活動を修正する。
 - ・子どもの変容・達成度の見取りと支援に生かす。

⑤ 道徳

視点1 学びを深めるための工夫

- 教材提示の工夫
 - ・紙芝居の形での提示、影絵、人形やペープサートなどを生かして劇のようにする、教科書の挿絵、音楽、ICTを効果的に活用するなど。
- 対話による思考の広がり、深まりを生み出す工夫
 - ・座席の配置を工夫する。
 - ・討議形式、ペア、グループなど、目的に応じて使い分ける。
- 思考が広がる発問の工夫
 - ・教材の描かれている道徳的価値に対する一人ひとりの感じ方や考え方を引き出し、物事を多面的・多角的に捉えられるような発問を工夫する。
 - ・「閉じられた発問」から「開かれた発問」となるよう工夫する。
(例) 考える必然性や切実感のある発問
自由な発想を促す発問
考えの根拠を問う発問
道徳的価値に迫る問い返しなど

視点2 目標・指導・評価の一体化

- ゴールイメージをもった授業展開の工夫
 - ・子どもたちが、どのような道徳的価値に近付いていくかを、実態などを踏まえて予測する。
 - ・一人ひとりの「納得解」、クラス全体の「合意解」のイメージを授業者がもつ。
- 自己の変容が感じ取れる工夫
 - ・導入と終末で同じことを聞く。
 - ・自分自身と重ね合わせて考えるよう促す。
- 道徳のノートやワークシートを活用した評価
 - ・様々な評価を、授業改善に生かしていく視点も大切にする。

(2) 研究内容 2

「Ⅱ 授業を支える取組の充実」を目指して、研究内容2「授業改善に向けた組織的な取組の工夫」に取り組むこととした。

平成30年度は、視点1「学年・教科の枠を超えた研修の工夫」、視点2「学校の枠を超えた研修の工夫」について情報収集を行うとともに、研修の取組や工夫に関して整理し、次年度以降の研究につなげることとした。

① 学年・教科の枠を超えた研修の工夫 ・授業力の向上を図る効果的な研修

(例)

○ 事前研修の工夫

- ・全ての教員が研究のテーマに沿って指導案を作り、交流する。
- ・模擬授業を行い、発問のあり方等について練り合う。
- ・作成した学習指導案について、授業者以外の先生も授業を行う。

○ 事後研修の工夫

- ・全ての教職員がブロックに分かれ、KJ法などのワークショップ型で協議を行う。
(年齢や経験に合わせて、意図的にブロック分けを行う)
- ・子どもの学びの姿や学びの質を視点とした研究協議を行う。

⇒学年の枠を超えた意見交流を行ったり、視点を明確にして協議したりすることにより、授業改善のポイントの共通理解を図り、さらなる授業改善につなげる。

○ 研修会等の還流報告

- ・様々な研究会や研修会への積極的な参加の呼びかけと交流を行う。

⇒研修会等で学んだことを学校全体の力とする。

○ 研究の窓口となる教科の設定の工夫

- ・研究の窓口となる教科の設定を工夫する。

⇒教科担任制の中学校でも、共通した研究を行えるよう工夫する。

○ 日常の授業実践の工夫

- ・一人一授業を行い、可能な範囲での交流を行う。
- ・学年で専科制をとるなどの工夫をする。

⇒日常的に授業を公開し、気軽に指導方法等を交流したり、教職員それぞれの得意分野を生かしたりするなど、授業の実践交流を日常化する。

② 学校の枠を超えた研修の工夫

- ・ブロックや中学校区等で連携した研修

(例)

○ 近隣校との連携を生かした取組

- ・地域公開日や学習参観日等に合わせ、近隣の小中学校の先生方が相互に授業参観を行う。
- ・定期的に研究担当が集まり、学習指導等に関する情報交流を行う。
- ・指導案検討などの事前研や、授業後の協議に互いに参加する。
- ・

○ 学校区を生かした取組

- ・出前授業を実施する。(中学校から小学校へ)
- ・中学生による小学生への学習支援活動を行う。
- ・合同授業など、小学校間の交流事業を実施する。
- ・中学校のテスト期間に合わせ、
 - *学力向上に向けたステップアップウィークの取組を行う。
 - *家庭学習週間の取組を行う。
- ・年間指導計画の作成を共同で行う。

○ 地域にある諸学校との連携

- ・交流のある特別支援学校の先生に来てもらい、学校の概要や取組等に関する交流を行う。

⇒研究の活性化や教職員一人ひとりの指導力の向上を図る。

3 研究方法について

※ 今年度は、研究内容1に特化して行うこととした。

○ 【研究内容1】

授業の視点に基づいた質的改善を図るための工夫の有効性について、授業実践を通して検証する。

4 授業実践例

(1) 〈小学校第6学年算数科 比例をくわしく調べよう〉

【視点1】学びを深めるための工夫

① 問題提示の工夫

子どもが自ら問いに向かい、単元全体を通して比例のよさを実感したり、比例の価値を見出したりしながら、興味関心をもって次の学びにつなげるためには、子どもがより主体的に学んでいけるようにすることが大切であると考えます。

そのため、具体物や半具体物を提示したり、問題把握のさせ方（文章のみの提示・図を加えて提示など）を工夫したりして、子どもが自分ごととして学びに向かっていくことができるようにした。

《本時では》

- ・実際に300枚以上の画用紙を用意し、その中から指導者が300枚の画用紙を瞬時に取り出すことによって、子どもたちの興味をひきつける。
- ・問題把握の際には、「ちなみに、10枚の重さは73gです。」と、後から問題文を追加することにより、比例の関係を使って考えることができそうだという見通しをもたせ、子どもたちの解決意欲を高める。

② 発問の工夫（思考を促す発問）

子どもたちが見通しをもち答えを予想したり、多様に考えたりするためには、「思考をゆさぶる発問」をする必要がある。

そのため、少ない声かけで子どもたちがより深い学びに向かっていくことができようように、発問を十分に吟味した。

《本時では》

○ 問題把握の場面で…

- ・画用紙を全部数えないで300枚用意したいのですが、できるかな？
- ・「枚数」に比例するものは何でしょうか？枚数とともに数値が変わるものは何でしょうか？

○ 個人思考の場面で…

- ・「枚数」と「重さ」が比例の関係になることを、表で表せるかな？ 式で表せるかな？
- ・表だけ書けばいいのかな？ 友達に分かってもらえるかな？
- ・式だけ書けばいいのかな？ 友達に分かってもらえるかな？

○ 交流の場面で…

- ・自分の考えは友達に伝わったかな？ 友達は分かって（納得して）くれているかな？

【視点2】目標・指導・評価の一体化

① 子どもの学びの見取りと支援

単元のねらいや一単位時間の学習目標に応じた評価項目の設定とともに、子どもの学びの状況を的確に把握し、子ども一人ひとりの学習指導の支援に生かすことが大切であると考えます。

一単位時間においては、子どもが思考している際の効果的な見取りと、それに対する支援が本時の目標の達成に向かうとともに、単元の目標の達成にもつながっていく。教師側が明確な評価規準を持ち、目指す学びの姿に照らし合わせ、子どもの学びの状況を見取り、子どものよさや可能性に共感しながら適切に声かけしたり支援したりといった「タイムリーな支援」を行うことにより、子どもが学習の目標を達成することができるようにしたいと考える。

本時では、子どもの学びの状況を、早い段階で見取るように心がける。目標を達成できていない子や自分の考えをもてていない子に対しては、考えるきっかけを用意しておき、友だちとの交流を促したり、既習事項を確認する時間を設けたりするなど、子どもの学びの状況に応じた声かけや促しをして、子どもが目標の達成に向かうことができるように支援した。

② 評価の場面

- ・個人思考の場面で → ノートに自分の考えをどのように書いているか。
- ・交流の場面で → 自分の考えを相手に分かりやすく説明しているか。
相手の説明を聞いて分からないことについて質問しているか。
- ・まとめの場面で → 自分の言葉で学習のポイントを書いているか。
- ・振り返りの場面で → 今日の学習で分かったことを書いているか。（～が分かった。）
今後、学習してみたいことを書いているか。（～を知りたい。）

○ 本時の学習（8／16）

（１）本時の目標

比例の関係にある２つの数量を見付け、比例の性質を問題の解決に用いている。

（数学的な考え方）

（２）本時の展開

学習過程	児童の活動	教師のかかわり	□評価規準 (評価方法) *努力を要すると判断される児童への手立て																				
導入	○ 問題を把握する。 画用紙300枚を、全部数えないで用意しましょう。 全部数えないと無理だよ…。 100枚数えて厚さをはかり、その3倍した厚さになるように、画用紙を積んでみたら…。 1枚の重さはどのぐらいになるだろう？ 10枚の重さを量り、その30倍の重さの画用紙を用意する。 ちなみに、10枚の重さは73gです。	- 画用紙300枚を取り出して見せる。 - 周りの子と交流し、枚数を数える方法を探らせる。 - 厚さと枚数が関係していることを認めつつ、重さに着目させる。	視点1 問題提示の工夫 視点1 発問の工夫																				
	○ めあてを確認する。 比例の関係を使って、画用紙の枚数を数える方法を考えよう。	- 問題文を追加し、10枚の画用紙を見ることによって、子どもたちの解決意欲を高める。 - 子どもたちの言葉を生かして、めあてを決めていく。	視点1 問題提示の工夫																				
展開	○ 枚数を数える方法を考える。 ・ノートに自分の考えを書く。 1枚の重さを求める。<table><tr><td>x</td><td>1</td><td>10</td><td>300</td></tr><tr><td>y</td><td></td><td>73</td><td></td></tr></table>$73 \div 10 = 7.3$$7.3 \times 300 = 2190$2190gの画用紙を用意するとよい。 比例の性質を使う。<table><tr><td>x</td><td>10</td><td>300</td></tr><tr><td>y</td><td>73</td><td></td></tr></table>$300 \div 10 = 30$$73 \times 30 = 2190$2190gの画用紙を用意するとよい。 決まった数を求める。<table><tr><td>x</td><td>10</td><td>300</td></tr><tr><td>y</td><td>73</td><td></td></tr></table>$10 \times \square = 73$$\square = 73 \div 10 = 7.3$$300 \times 7.3 = 2190$2190gの画用紙を用意するとよい。	x	1	10	300	y		73		x	10	300	y	73		x	10	300	y	73		- 表と式の両方を書くように促す。 - 自分の考えをノートに書くことができた子から交流するように促す。	視点2 学びの見取りと支援 視点1 発問の工夫
	x	1	10	300																			
y		73																					
x	10	300																					
y	73																						
x	10	300																					
y	73																						
○ 枚数を数える方法を交流する。 ・表や式を見せながら説明したり、友達の考えを聞いたりする。 ・同じ考えのグループごとに、枚数を数える方法(表や式)をホワイトボード等を書く。 ・各グループが方法を発表する。(全体交流)	- 交流する際には「何を求めることからスタートしたか」と「表の書き表し方」に着目して同じ考えの友達を見付けるように促す。 - 自分の考えと同じ考えの友達を見付け、お互いに補い合いながら枚数を数える方法を説明できるように促す。 - 同じ考えのグループごとに、ホワイトボ	*見通しがもてない子は、周りの児童と対話するように声がけする。または、指導者のもとに集めて、比例の関係を表すための方法を確認させる。 考 比例の関係																					

	○ 枚数を数える方法を確認する。 ・ 1 枚の重さや10枚の重さから、300枚の画用紙を数えることができる。 ・ 枚数と重さの間にある決まった数をもとに、300枚の画用紙を数えることができる。 1枚の重さを求めなくても300枚の重さを求めることができるんだね。	ード等を渡す。 ・ 子どもたちから出てきた考えを整理していく。 ・ 疑問に思うことが出てきた際には、全体交流の中で、解決していくようにする。	にある2つの数量を見付け、比例の性質を問題の解決に用いている。 (ノート・発言)																								
終末	○まとめを書く。 (画用紙の枚数を全部数えなくても)画用紙の重さが枚数に比例していることを使うと (およその枚数を用意することができる。) ○ 適用問題を解く。 ① 桔梗小学校の全児童720人分の画用紙を全部数えないで用意する方法を考える。(ノート) <table><tr><td>x</td><td>10</td><td>720</td></tr><tr><td>y</td><td>73</td><td></td></tr></table> 720÷10=72 73×72=5256 5256gの画用紙を用意するとよい。 ② 画用紙20枚で5mmであることを使って、720人分の画用紙を全部数えないで用意する方法を考える。(プリント) <table><tr><td>x</td><td>20</td><td>720</td></tr><tr><td>y</td><td>5</td><td></td></tr></table> 720÷20=36 5×36=180 厚さ180mmの画用紙を用意するとよい。 ・ ①と②の答えを確認する。 ○ 学習の振り返りをする。 表を書くと、2つの量の関係がわかりやすく、答えを求めるのに役立った。 普段の生活の中でも、比例を使うと簡単に数えたりできるものがありそうと思った。	x	10	720	y	73		x	20	720	y	5		・ 書き出しの言葉は、教師側で提示する。 ・ 発表や板書をもとに、各自にノートにまとめさせる。 ・ 1問めが終わった子には、2問めのプリントを配付して挑戦させる。 <table><tr><td>x</td><td>10</td><td>720</td></tr><tr><td>y</td><td>73</td><td></td></tr></table> 720×7.3=5256 5256gの画用紙を用意するとよい。 ・ 早く解き終わった子に、ホワイトボード等に解答を書かせる。 <table><tr><td>x</td><td>20</td><td>720</td></tr><tr><td>y</td><td>5</td><td></td></tr></table> 20×□=5 □=5÷20 =0.25 720×0.25=180 厚さ180mmの画用紙を用意するとよい。 ・ ①と②の答えを確認させる。	x	10	720	y	73		x	20	720	y	5		視点2 学びの見取りと支援 考 比例の関係にある2つの数量を見付け、比例の性質を問題の解決に用いている。 (ノート・発言)
	x	10	720																								
y	73																										
x	20	720																									
y	5																										
x	10	720																									
y	73																										
x	20	720																									
y	5																										

(2)〈小学校第4学年外国語活動 Let's Try!2 Unit 5〉

視点1 学びを深めるための工夫

① 外国語を使用する場面設定の工夫

- ・日常起こりうるもの
- ・児童にとってタイムリーなもの

② 対話による表現の振り返り

- ・思わず英語で答えてしまう場面づくり
- ・相手と相互に output する中での表現への気付き

③ 思考を促す発問

- ・新しい語句や表現の input をねらった場面での意味を類推させる補助発問
- ・自分の表現を、相手と比較したり自分の表現を再確認したりする交流場面での促し

視点2 目標・指導・評価の一体化

① 評価の場面と方法

- ・目標の提示方法の工夫
 - * 評価規準としての提示 * 目標と対応した自己評価（振り返りシートの活用等）

② 子どもの学びの見取りと支援

- ・振り返りシート等の活用による自らの変容や達成度の確認
- ・対話や交流中の児童の output の評価・修正



○ 本時の学習（1／4時間）

（1）本時の目標

- ・文房具などの学校で使う物について聞いて分かる言葉を増やし、持っていることを伝える表現に慣れ親しむ。（外国語への慣れ親しみ）
- ・文房具など学校で使う物について、英語と日本語の音声やリズムなどについての共通点や相違点に気付く。（言語や文化に関する気付き）

（2）本時の展開

学習過程	児童の活動	教師のかかわり		評価規準 (評価方法) *努力を要すると判断される児童への手立て
		教諭	サポーター	
導入	○ あいさつをする。 教: Hello, everyone. 児: Hello, Mr. Yokoyama. 教: How are you Today? 児: I' m fine. Thank you, and you? 教: I' m fine, too. Thank you. Let' s say hello, Miho-sensei. 児: Hello, Miho-sensei. サ: Hello, everyone. 児: How are you Today? サ: I' m fine, thank you, and you? 児: I' m fine, too. Thank you. 教: I' m looking forward to learning with you. Let' s start our English class.	・あいさつをする。		※ ネームカードを配る。
	【アルファベットクイズ】 ・自分のネームカードをもとに、自分の名前の中のアルファベットを見付ける。【sit down game】	・児童の名前の中にあるアルファベットを尋ねる。	・児童の名前の中にあるアルファベットを尋ねる。	
	教: My name is Yoshihiro . （黒板に掲示する） Y-o-s-h-i-h-i-r-o Yoshihiro. 教師の名前のアルファベットカードの1つを取り上げ、 What letter is this? Yes, it is a “s” . Stand up , please. 自分がそうだなと思ったら手を挙げて座ります。 Do you have a “s” in your name? (手を挙げている児童に) Oh, You have a “s” in your name. Sit down. サ: 同様に教師と交互に繰り返す。			
展開 ①	○ 歌を聞く。 ・聞こえてきた音を聞き取ろうとする。 ・歌えそうなところから歌う。	・歌「The Bear Went Over the Mountain」を歌う。		視点1 思考を促す発問
	○ クマのリュックに入っているものを考えて言う。 ・クマの持ち物を聞き、自分が持っているもののときは繰り返して言う。	・内容を絵で掲示する。 ・児童が言ったものを絵に描く。 ・自分が今学校に持っている物の時には繰り返すよう指示する。	・歌を繰り返し聞かせる。 ・何て聞こえたなど、小さな課題を繰り返す。 ・クマのリュックに何が入っているかを尋ねる。 ・クマになったつもりで持っている物について言う。	

視点1
思考を促す発問

視点1
対話による表現の振り返り

めあて『学校で使う自分の持ち物の言い方に慣れよう』 ※ 提示はせず、振り返り時に確認				
展開②	○ 持っているものの言い方や文房具の言い方に慣れる。 ・ 教諭の筆箱の中身を聞く。	・ 持っている文房具の言い方を聞かせる。 ・ サポーターの筆箱の中身を尋ねる。	・ 教諭の筆箱の中身を尋ねる。 ・ 持っている文房具の言い方を聞かせる。	* 実物投影機で筆箱の中身をモニターにも映す。
	教：じゃあこれの中身は？などと言いながら自分の筆箱を見せる サ：What do you have in your pen case? 教：I have a pencil in my pen case. ※ このやり取りを筆箱が空になるまで繰り返し聞かせ、教諭とサポーターが役割を交代して再度聞かせる。 ※ 途中で表現に慣れてきたら、指導者と一緒に尋ねるように促す。			視点2 学びの見取りと支援
	・ 自分の持っている文房具を話す。	・ 児童が持っている文房具を尋ねる。	・ You have ～. で返し、表現を繰り返して聞かせる。	* 無理な発話にならないように、様子を見ながら促していく。
展開③	○ 自分の持ちものについて話す。 ・ 教師の鞆の中身を予想する。	・ 鞆やポケットの中に色々なものを入れておき、中身を予想させる。	視点1 対話による表現の振り返り	
	・ 教師の鞆や自分のポケットやランドセルなどの中に入っているものを話す。	・ いくつかをボランティア児童に先生役になってもらい、教師の鞆の中身を話させる。	・ 児童が何を持っているかを尋ねる。	□【コ】(観察) 文房具など学校で使う物の言い方を聞き、自分の持ち物を言っている。 □【コ】(観察・座席表へ記録) 学校で使う物の言葉で、外来語と英語の音の違いに気付いている。
終末	教：汗をぬぐいながら I need a handkerchief. Do I have a handkerchief? Oh, yes. I have a handkerchief in my pocket. このようにいくつかポケットや鞆の中身を話す。 サ：What do you have in your pocket(bag / desk)? 児：I have … . サ：You have … .			視点2 学びの見取りと支援
	○ 今日分かった表現を振り返りシートに記入し、発表する。 ○ あいさつをする。	・ 今日の学習で意味が分かった表現を尋ねる。 ・ あいさつをする。	・ 児童の表現を繰り返して、さらに聞かせる。	

(3) 〈小学校第6学年外国語活動 We Can 2 Unit 1〉

視点1 学びを深めるための工夫

- ・外国語を日常起こりうる場面で使用できるよう場面設定を工夫する。また、input の段階では初めて聞く外国語表現を用いて児童の類推を促す。
- ・児童が input した表現を他者へ output し、自己の外国語表現について見つめ直す機会を設ける。

視点2 目標・指導・評価の一体化

- ・振り返りシートを用いて児童が自己評価する機会を設ける。
- ・対話や交流中における児童の外国語表現の変容を、的確に評価する。

○ 本時の学習

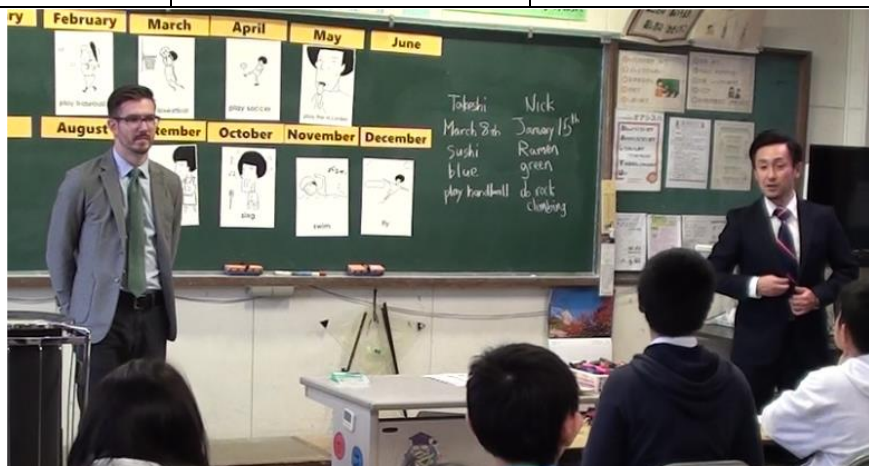
(1) 本時の目標

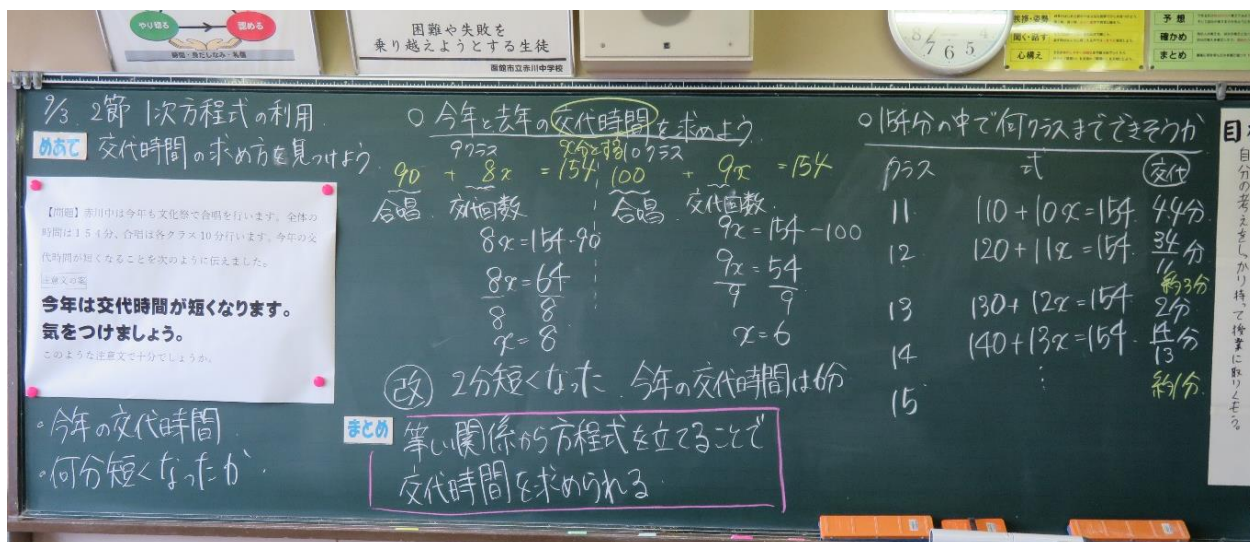
- ・自己紹介に向けて、自分の好きなものやできることについて、聞いたり言ったりしようとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・自己紹介に関する表現や好きなこと、できることなどを表す表現に慣れ親しむ。
(外国語への慣れ親しみ)

(2) 本時の展開

学習過程	児童の活動	教師の関わり		□評価規準 (評価方法) ※努力を要すると判断される児童への手立て
		JTE	ALT	
導入	○ 挨拶をする。 JTE・ALT の自己紹介を聞く。 I am Takeshi Kasai. My birthday is March 8 th . (birthday) I like sushi. (food) I like green. (color) I can play soccer. (can)	・ 挨拶をする。 ・ 自己紹介をする。	・ 挨拶をする。 ・ 自己紹介をする。	視点1
	○ カレンダーを見ながら月の名前を推測する。 ○ birth “month” sit down. ○ 自分の誕生月について答える。 T) I was born in March. Who was born in February? (聞いた後、February と書いたカードを提示) S) Yes. (月が該当していれば、“Yes”と言い手をあげてから着席)	・ カレンダーを見せて何月か推測させる。 ・ birth “month” sit down の説明をする。 ・ 誕生月を質問する。	・ 誕生月を質問する。	
	○ 序数の言い方を声に出して確認する。 ○ 自分の誕生日の序数をリピートする。	・ カレンダーを提示し、発音しながら確認させる。	・ 序数を読み、児童自身の誕生日についてはリピートさせる。	

展 開	○ 好きな食べ物についてもう一度聞き，述べ合う。	・好きな食べ物を述べ，A L Tに質問する。 I like Yakitori. What food do you like?	・J T Eに好きな食べ物を答える。 I like Ramen, Yakitori...	視点1・2
	○ 好きな食べ物を答える。	好きな食べ物について児童とやり取りする。(全員に質問)		
	○ 好きな色についてもう一度聞き，述べ合う。	・好きな色を述べ，A L Tに質問する。 I like blue. What color do you like?	・J T Eに好きな色を答える。 I like green, black, and...	□【コ】(観察) 好きなものについて，聞いたり言ったりしようとする。
	○ 好きな色を答える。	好きな色について児童とやり取りする。(全員に質問)		
	○ 教師の「できること」を聞き，理解する。	・「できること」について絵を提示しながら話す。	・「できること」について絵を提示しながら話す。	※必要があれば教師側の発音を繰り返す。
		JTE : I can play (soccer, baseball, basketball, the recorder). What can you do? ALT : I can (swim, cook, sing, fly.)		
	○ 「できること」について，先生の後に続いて言う。(自分ができるだけリピートする)	・自分ができることだけリピートするよう説明し，I can フレーズを言う。	・I can フレーズを言う。	□【慣】(観察) 自分のできることを言ったり，聞いたりしている。
	○ 自分のできることを答える。	自分のできることについて児童とやり取りする。(全員に質問)		
		・ここまで会話したことで自己紹介ができることを説明し，準備をさせる。	・児童にできることを聞く。	視点1・2
	○名前 ○誕生日 ○好きな食べ物 ○好きな色 ○自分ができることをA L Tに伝えよう。			
終 末	○ 自己紹介を行う。		・児童の自己紹介を聞く。	□【コ】(観察) 自分のことを言おうとしている。
	○ 本時の活動を振り返る。(振り返りシートに記入する) ○ 挨拶	・学習内容を確認する。 That's all for today.	視点2	



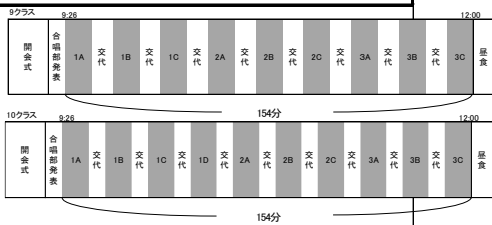
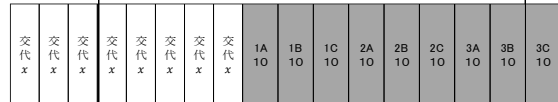


○ 本時の学習（7／12時間）

（1）本時の目標

- 方程式を利用して問題を解決する手順を理解している。【知識・理解】
- 具体的な事象の中の数量の関係を捉え、方程式をつくることができる。【数学的な見方・考え方】

（2）本時の展開

学習過程	生徒の学習活動	教師の支援	評価規準(評価方法) *努力を要する判断される生徒への手立て
導入	○ 問題を把握する。 問題 赤川中学校は文化祭で合唱を今年も計画しています。 合唱は各クラス10分を行います。 今年はクラス数が昨年の9クラスから1クラス増え10クラスになりましたが、合唱全体の時間154分は今年も昨年と同じにします。 各クラスに今年は交代時間が増えることと注意を次のように考えました。 ※ 注意文の案：今年の合唱では交代時間が短くなります。気を付けましょう。 このような注意文で十分でしょうか。	○ 文化祭のスケジュールを図で提示する。	視点1 問題設定の工夫
	○ 注意文に、さらに付け加えるとよいことは何かを考える。 ・何分短くなるかが必要 ・今年の交代時間が何分であるかが必要 めあて 交代時間の求め方を見付けよう。 ○ 交代時間の求め方の見通しをもつ。 ・xを用いて求めることができそう。 ・発表時間を全体から引いて求めることができそう。	 ○ めあてを提示する。 ○ ワークシートを配布する。 ○ 交代時間を注意文に付け加えることを伝える。 ○ めあてを見通しをもたせ、個人思考に入らせるようにする。 ○ 交代時間をx分として考えている生徒の考えを取り上げる。	
展開	○ 交代時間を求める。 方程式を利用した方法 $\begin{array}{l} 9x + 100 = 154 \\ 9x = 154 - 100 \\ 9x = 54 \\ x = 6 \end{array} \quad \begin{array}{l} 8x + 90 = 154 \\ 8x = 154 - 90 \\ 8x = 64 \\ x = 8 \end{array}$ A. 2分短くなる	○ 四則計算を用いて求めている生徒には、方程式の立式も促す。 ○ 机間指導をして、個人思考の状況等を把握する。 	【考】具体的な事象の中の数量の関係を捉え、方程式をつくることができる。（ワークシート） *周りの生徒に確認しながら求めるとよいことを伝える。 視点2 見取りと支援 視点1 効果的な対話
	○ 交代時間の求め方を交流する。 ・交代時間の求め方について話し合う。（グループ→全体） ○ 注意文に付け加える内容を確認する。 ○ まとめ 交代時間を求めるには、等しい関係から、方程式を立てるとよい。そのため求めたい数量をxとおく。	○ 生徒のワークシートをスクリーンに映し、追究過程を共有させる。 ○ 式の意味を捉えることができるよう言葉で書き表す。 ○ 付け加える事項を全体で確認する。 ○ 求めたい数量をxとおくことで求めることができることを確認する。	

終末	○ 次年度以降に、どのような問題が生じるか考える。 ・ 11クラスに増えると交代時間はどうか。 ・ 全体が154分の場合何クラスまで可能か。 ・ 交代時間を5分確保する場合、全体の時間を何分にするとよいか。 ○ 全体の時間が154分の場合の問題を考える。 ・ 11クラスになると、交代時間はどうか？ ・ 12クラスになると、交代時間はどうか？ ・ 13クラスになると、・・・ ○ 全体の時間が154分の場合の問題について、交流する。 ・ 求めるための方程式は？ ・ 交代時間は？ ○ 本時の学習を振り返る。	○ 起こり得そうな問題について、考えさせ、意見を共有させる。 ○ 新たな問いを1つ設定し、グループごとに考えさせる。 ○ 交代時間が分数や少数になる場合もあるが、おおよその時間で考えるとよいことを伝える。 ○ 立式について確認する。 ○ 方程式を利用して問題を解決することへの動機付けを図る。	【知】方程式を利用して問題を解結する手順を理解している。（ワークシート） *言葉の式をもとに考えるよう伝える。 視点2 見取りと支援 視点1 効果的な対話
----	--	--	--

5 授業実践における成果と課題

○ 各授業実践において、次のような成果と課題が得られた。

(1) 視点1「学びを深めるための工夫」

【成果】

① 算数・数学

- ・問題提示において、子どもたちが自分の問いとすることができるようイラストコンクールのことを問題にしていた。(算数)
- ・身近な事柄を問題にすることで、必要感をもって学習に取り組んでいた。(数学)
- ・導入において既習内容を振り返り、つながりを意識して学習することができていた。既習内容の定着が、子どもたちの見通しをもつのに役立っていた。
- ・教師の言葉を精選し、子どもの発言で授業を進めていた。発問については、子どもたちが思考を揺さぶられるようなものも見られた。
- ・式と表がまとめて提示されていたので、式と表の関係がとらえやすくなっていた。(算数)
- ・交流において、全員が自分の考えをもって取り組めるようにしていたため、主体性のある交流につながった。交流の視点も提示されており、目的をもって交流する姿が見られた。
- ・違う考えの人とだけでなく、同じ考えの人とも活発に交流し、式が同じでも違う考えであることに気付いていた。
- ・活動の時間を長くとることで、じっくり考え深めることができていた。
- ・全体交流で、友達の考えを式や表を見て説明し、理解を深める姿が見られた。

② 外国語（4年）

- ・場面設定の工夫：日常起こりうる無理のない場面設定をすることにより、子どもたちが意欲をもって取り組んだり、学習内容を容易に類推したりすることができた。
- ・1時間の流れが円滑となる展開の工夫：授業の流れを単調にすることなく、その中でフルセンテンスでの英語活動を徹底することで目標の達成につながった。
- ・inputを大切にしたい授業展開：目標としていた「I have」の表現を何度もinputする場面を確保することで、しっかりと表現を身に付けることができた。
- ・無理なoutputをさせずにinputを重視：発達の段階に即した活動を取り入れることで、児童の子どもたちが自信をもって主体的に取り組むことができた。

③ 外国語（6年）

- ・動詞の種類を厳選し、子どもたちが意欲的に話したくなる工夫をした。
- ・十分なinputからoutputにつなげ、子どもたちに「できる」という自信をもって発話させることができた。
- ・子どもの動きを細かく予測しながら綿密な教材研究や教具の準備を行った。
- ・活動の説明を最小限にすることで、自然に類推しながら授業に参加することにつながり、子どもの頭の中がアクティブになった。

【課題】

① 算数・数学

- ・終末においては、実感を伴う体験や活動を取り入れるなどして、より一層有用感をもたせる指導の充実を図る必要がある。
- ・教師の言葉を精選しすぎて、一部の子どもにとって分からないと感じさせてしまう場面があった。 x は枚数で、 y が重さであることなど、初めの情報を丁寧に扱ってもよかった。問題把握における、教師の発言の難しさが感じられた。(算数)
- ・多様な考え方(x を1とみる、比例定数など)を使った考え方を扱う機会を増やしてもよかった。(算数)

② 外国語（4年）

- ・授業で扱う語彙を増やし、よりinputを増やす工夫があるとよい。

- ・単語単語で区切らずに、フルセンテンスで最後まで話す工夫があるとよい。
- ・児童の実態に応じた教材研究には時間がかかった。

③ 外国語（６年）

- ・JTEとALTの連携（ねらいの共有，細かな流れの確認）が必要である。
- ・展開に応じて，テンポよく進める場面とじっくり取り組ませる場面のメリハリをつける等の工夫があるとよい。
- ・「それでは」「NEXT」等の言葉を教師が使わずに，自然な流れで次の展開へつなげる工夫が必要である。

（２）視点２「目標・指導・評価の一体化」

【成果】

① 算数・数学

- ・簡単にヒントを与えず，個に応じて考えるきっかけとなる声かけがよかった。
- ・子どもたち一人ひとりの見取りがしっかりととらえていたことで，学習の深まりが見られた。
- ・まとめ，めあてが子どもたちの言葉でつくられていたことから，子どもたちが学習の目標をとらえ，目標に向かって学習に取り組むことができていた。（算数）
- ・「どうして？」「どうしようね，困ったね。」など，子どもたちの思考を揺さぶる「問い返し」をすることで，考え方をまとめさせ，論理的に思考させるようにしていた。（算数）
- ・グループ交流時に，状況に応じた声かけをするなど，教師が意図的に発問をすることで学習活動にスムーズに取り組むことができていた。（数学）

② 外国語（４年）

- ・教師と子どもの対話や子ども同士の対話のなかから見取りを行い，自然にoutputが出てきた段階で活動を変える工夫が見られた。
- ・めあてを掲示しないことで，流れの中で子どもが主体的にめあてをもつことができていた。
- ・振り返りシートが目標・指導と合致していて，目標・指導・評価の一体化ができた。

③ 外国語（６年）

- ・子どもの変容が見られる場面が教師とのやり取りの中で見られた。
- ・めあてを出すタイミングを授業の冒頭ではなく，流れの中で子どもが気付くようにしていた。

【課題】

① 算数・数学

- ・交流において，分からなくて交流できなかった子どもが意見を聞きに行き，「考えるきっかけ」を得るなど，活動時間の確保が必要であった。自分の考えをもてなかった子どもが，どのように学習に参加していくか工夫が必要である。
（ノートに足跡を残す，交流を通じてまとめさせるなど）
- ・めあてが提示された段階でまとめの内容が把握されているようだった。（算数）

② 外国語（４年）

- ・子ども同士の対話は，本単元では時間が不足していた。全体の指導計画の中でどのような能力を育成するかを検討する必要がある。

③ 外国語（６年）

- ・日常的に必然性のある会話を意識し，安易にほめないことが大切である。（「good」など）
- ・掲示物により本時の表現を示すことで見通しをもたせようとしたが，十分に活用できなかった。
- ・活動と振り返りシートのつながりを吟味する必要がある。
- ・（自己紹介をまとめて行えるようにするという）評価の場面の工夫が必要である。
- ・次年度の外国語活動の実施に向けて，書く形でのoutputの評価も求められる。

6 研究の成果と課題

○ 研究内容 1 に関して、本年度の研究を通して、次のような成果と課題が得られた。

【成果】

- ・ 日常起こり得る無理のない場面設定となっていた。身近な問題を提示することで、子どもが必要感を感じ、自分の問いとすることができた。
- ・ 子どもたちの気付きの中からめあてが設定されていたり、子どもたちが「取り組みたい」と思うような場面設定をしたりすることにより、意欲が持続し、めあてに向かって主体的に活動することができた。
- ・ 見通しをもって主体的に学習活動に取り組めるように、子どもたちが「やりがい」を感じるような問題を考えたり、子どもの思考を促すような発問を工夫したりすることができた。
- ・ 式や図などを用いて対話することで、子どもたちが深く思考する姿が見られた。
- ・ 交流およびアウトプットをくり返すことにより、子どもたちが知識を獲得していく様子が見られた。

【課題】

- ・ 子どもたちに活動の時間を確保するため、展開に応じて、子どもの活動に軽重を付けて授業を展開していく必要がある。
- ・ 対話を子どもたちにすべて任せるのではなく、形式的ではない意味のある対話につながるよう発問をさらに工夫したり、教師がファシリテーターとなって授業を展開していくことが大切である。
- ・ 教師の「みる力（見る・観る・看る）」をさらに高めていく必要がある。
- ・ 獲得した知識を実生活でも活用できる経験を多くさせ、生きて働く力につなげていく必要がある。

7 次年度の展望

今年度の研究の成果と課題を受け、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に向けた研究を推進したい。

研究を通して、研究員一人ひとりが、教科に特化した「見方・考え方」を軸とした学習指導の工夫や、教師の働きかけや見取り等の工夫、子どもの思考をよりゆさぶる発問の工夫など、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた、子どもの学びの過程のさらなる質の向上を図っていくことの重要性を実感した。

次年度の研究では、これまでの授業実践の蓄積を生かしつつ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、さらに質の高い学びを図っていくための指導の工夫について研究を進めたいと考える。

また、教師の指導力のさらなる向上を図るため、校内研修の工夫に関する取組の実践等を通し、より効果的な校内研修の在り方について整理していきたいと考える。

《参考文献・資料》

- ・「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」
（答申） 中央教育審議会
- ・「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」
（答申） 別添資料 中央教育審議会
- ・小学校学習指導要領解説 算数編
- ・小学校学習指導要領解説 外国語活動編
- ・中学校学習指導要領解説 数学編
- ・独立行政法人教職員支援機構次世代教育推進センターHP
- ・評価基準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 算数】
- ・評価基準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 外国語活動】
- ・評価基準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 数学】
- ・平成28年度 函館市の学校教育の指針「アプローチ」第58号
- ・平成29年度 函館市の学校教育の指針「アプローチ」第59号
- ・平成30年度 函館市の学校教育の指針「アプローチ」第60号

【研究担当者】

【教育方法部：平成30年度研究員】

山 崎 修	（函館市立神山小学校教諭）	高 波 綾 佳	（函館市立八幡小学校）
葛 西 猛	（函館市立戸倉中学校教諭）	永 井 朋 子	（函館市立桔梗小学校）
道 幸 篤 史	（函館市立深堀小学校教諭）	三 浦 明 子	（函館市立南本通小学校）
中 村 円	（函館市立北美原小学校教諭）	中 里 敦	（函館市立戸井西小学校）
横 山 嘉 弘	（函館市立上湯川小学校教諭）	川 端 祐 介	（函館市立亀田中学校）
馬 場 一 徳	（函館市立弥生小学校）		

【授業協力】

藤 原 涼太郎 （函館市立赤川中学校教諭）

【指導主事】

佐 藤 大 輔
酒 井 光 史
辰 巳 哲 治
小 林 郁
中 村 健太郎